

上陽地域水田農業推進協議会水田フル活用ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

本地域は、農林業を基幹産業とする地域で、立地・気象条件を活かし、茶を中心に野菜・果樹・しいたけ等を組み合わせた複合経営が行われている。その経営は、総面積の77%を山林に占められ、ほとんどの農地が棚田状をした小規模・不整形であることから、作業性・生産性に劣り、厳しいものとなっている。また、高齢化・担い手不足による地域活力の低下が課題となっている。

こうした中、作業効率の向上・生産性の向上を目指し、近代化施設の整備を推進し、安定した経営体の育成を図っているところである。特にいちご・なす・トマト、きゅうり、おくら等の野菜、菊等の花きについては、収益性、需要者からの要望も高いため推進を図っているが、燃料費、資材費の高騰により厳しい経営を強いられている。

2 作物ごとの取組方針

(1) 主食用米

主食用米については、小規模・不整形での栽培であるため、自家消費用の農家が中心であることから、主食用水稻での産地化は難しいが、需要に応じた生産を行う必要がある。

また、消費者ニーズに合ったうまい米づくりを目指し、優良品種への更新に努めるとともに、地元産米の消費拡大を図る。

(2) 非主食用米

当地域では、需要者からの要望がないため非主食用米の取組は推進しない。

(3) 麦、大豆、飼料作物

当地域では、需要者からの要望がないため麦・大豆等の取組は推進しない。

(4) そば、なたね

当地域では、需要者からの要望がないためそば・なたねの取組は推進しない。

(5) 野菜・花き

いちご・なす・トマト、きゅうり、おくら等の野菜、菊等の花きを中心に作業効率・生産性の向上を目指し、その振興を図るため、各種補助事業を活用し、近代化施設を導入し、経営を安定させる、また、産地交付金を活用し、いちご・なす・トマト等の野菜、菊等の花きにおける支援措置を行い、既存面積9.1haから9.6haへの作付面積の維持・拡大を行う。

また、産地を形成するため、需給者からの要望が高いオクラ、きゅうりの振興を図り既存面積0.7haから1.3haへの拡大を目指す。

(6) 不作付地の解消

小規模・不整形であるため、耕作放棄地となっている農地が多いが、中には優良農地もあり、その農地にあった野菜・花き類の作付を図り、不作付地の解消を行いたい。今後5年間で、既存の不作付地7.9haの内、約1割(0.7ha)の解消へ向け、担い手への流動化、作業受委託を積極的に推進する。

3 作物ごとの作付予定面積

作物	平成25年度の 作付面積 (ha)	平成27年度の 作付予定面積 (ha)	平成28年度の 目標作付面積 (ha)
主食用米	70.0	70.0	70.0
飼料用米	—	—	—
米粉用米	—	—	—
WCS用稲	—	—	—
加工用米	—	—	—
備蓄米	—	—	—
麦	—	—	—
大豆	—	—	—
飼料作物	—	—	—
そば	—	—	—
なたね	—	—	—
その他地域振興作物	12.3	13.5	14.0
野菜	11.1	12.3	12.6
・いちご	7.2	7.2	7.3
・なす	1.0	1.1	1.2
・トマト	0.2	0.2	0.3
・おくら	0.1	0.3	0.3
・きゅうり	0.6	1.0	1.0
・その他野菜	2.0	2.5	2.5
花き	1.2	1.2	1.4
・菊	0.7	0.7	0.8
・その他花き	0.5	0.5	0.6

4 平成 28 年度に向けた取組及び目標

取組 番号	対象作物	取組	分類 ※	指標	平成 25 年度 (現状値)	平成 27 年度 (予定)	平成 28 年度 (目標値)
1	いちご	担い手による作付	ア	実施面積	7.2ha	7.2ha	7.3ha
2	なす	担い手による作付	ア	実施面積	1.0ha	1.1ha	1.2ha
3	トマト	担い手による作付	ア	実施面積	0.2ha	0.2ha	0.3ha
4	菊	担い手による作付	ア	実施面積	0.7ha	0.7ha	0.8ha

※「分類」欄については、要綱（別紙 10）の 2（5）の ア、イ、ウのいずれに該当するか記入して下さい。
（複数該当する場合には、ア、イ、ウのうち主たる取組の記号をいずれか 1 つ記入して下さい。）

ア 農業・農村の所得増加につながる作物生産の取組

イ 生産性向上等、低コスト化に取り組む作物生産の取組

ウ 地域特産品など、ニーズの高い製品の産地化を図るための取組を行いながら付加価値の高い作物を生産する取組